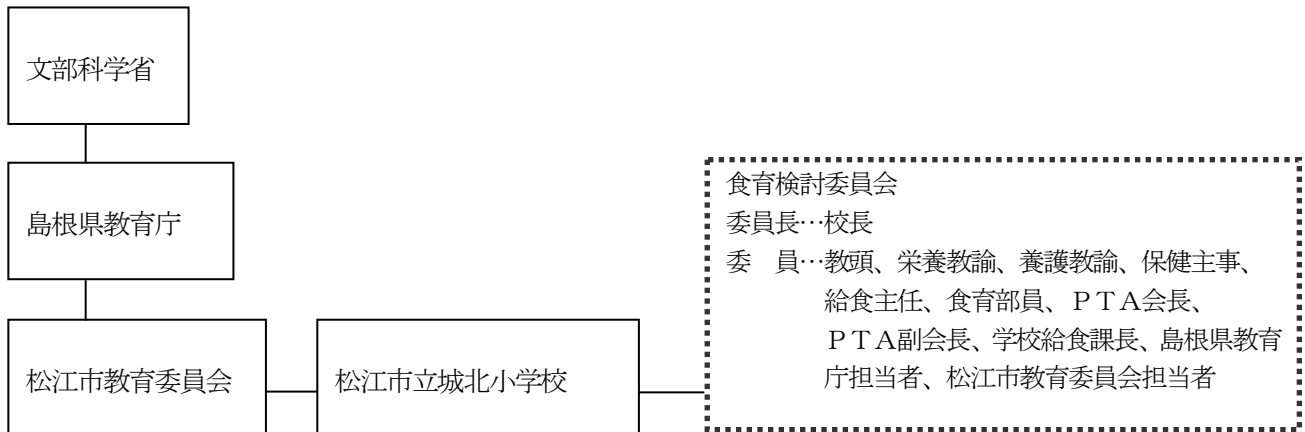


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	島根県
推進地域名	松江市

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

### テーマ1 食に関する指導の充実

#### 1. 食に関する指導の全体計画と年間指導計画の作成

・職員会議で栄養教諭の職務、及び全体計画、年間指導計画について提案し、各学年で食育を推進。

○学校給食時間 …実践の場として教職員と栄養教諭が連携しながら継続的な指導。

#### ○教科

・学級担任や教科担当の教諭と連携して、学校給食を教材に活用しながら指導。

小学校5年生（家庭科）…松江市教育研究会食育部会の公開授業を実施。

「食生活をパワーアップ！～つくろう、守ろう、わたしと家族の健康～」

小学校6年生（家庭科）…「朝食に合うおかずを作ろう」

#### ○学級活動

・「食生活を考えよう」（文部科学省）や「食の学習ノート」（島根県版）の活用。

学級担任と栄養教諭が連携した食に関する指導。

・小学校1年生、小学校4年生は保護者参観日に公開授業を実施。



#### 2. PTAとの連携

○給食試食会 ……1年生保護者 6月22日（火）実施。

・児童の実態と保護者の食育に関する内容を事前に調査し、結果をもとに食に関する指導を行った。

○親子料理教室 ……「元気モリモリ朝ごはんクッキング」 7月27日（火）実施。

・朝食に関する指導と調理講習会をセットにして行った。

・親子で料理を作る楽しさを感じ食に関心を高めるきっかけとなり、とても好評であった。

・11月27日（土）に第2回親子料理教室を開催予定。

○食に関する講演会の開催 10月22日（金）実施。

・演題「今こそ考えたい子どもの食！」 講師：奥出雲町立亀嵩小学校長 古川康德 先生

（前 島根県教育委員会 保健体育課 健康づくり推進室 企画幹）

保護者、小中一貫教育校区の幼・小・中学校の食育担当者、教職員を対象に実施。

### 3. 食育だよりの発行

- ・食に関する情報提供や啓発活動として毎月発行。
- ・記載内容は、小中一貫教育校区の小学校栄養教諭と連携をとりながら作成。

### 4. 学校給食の活用

○献立の教材化を図り、地産地消を推進。

- ・年間献立計画（教科、学校行事、行事食等を踏まえて作成）に沿った献立作成。
- ・地産地消を推進し、地元食材を使用する。
- ・中海圏域（松江市、米子市、境港市、安来市、東出雲町）の共通事業として、特産品を学校給食に提供し、中海圏域や郷土の食材について関心を持たせ、郷土への愛着を強め、食生活をより豊かなものにし食育を推進する取り組みを行った。

テーマ2

テーマ3

## テーマ1～3に共通する具体的計画

食育推進事業の効果を見るために、児童や保護者、教職員を対象にアンケートを実施。

1. 児童対象のアンケート・・・4年生～6年生  
・生活リズムや食生活、学校給食について調査 6月、2月に実施。
2. 保護者対象のアンケート 1年生の保護者  
・児童の実態と保護者の食育に関する内容を調査 6月実施。
3. 教職員対象のアンケート 7月実施。  
・1学期の給食時間の指導を振り返り、児童の実態把握と教職員の食育に関する意識を調査し、2学期以降の取り組みにつなげる。

## 数字で変化のあった事項について

アンケート結果より抜粋

児童対象のアンケート 4～6年生を対象にH23年2月実施 (カッコはH22年6月の調査結果を表示)

- ・朝食 …毎日食べる 92%↓ (6月 93%)、時々食べる 7%↑ (6月 5%)、食べない 1%↓ (6月 2%)
- ・睡眠時間 …8時間 48%↑ (6月 36%)、9時間以上 34%↓ (6月 40%)
- ・朝食の内容…主食のみ 15%↓ (6月 18%)、主食と主菜 21%↓ (6月 36%)、主食と副菜 6% (6月 6%)、  
主食と主菜と副菜 28%↑ (6月 22%)、主菜と副菜 0%↓ (6月 2%)、その他 30%↑ (6月 16%)
- ・排便習慣 …毎日 56%↓ (6月 57%)、2～3日に1回 35%↑ (6月 33%)、4～5日に1回 6%↓ (6月 7%)、  
1週間に1回 3% (6月 3%)

## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- 栄養教諭を中核として校内の食育部を組織し、連携して食育推進の取り組みができた。食育応援キャラクターを募集し、子どもたちに楽しみながら食育を考えさせることができた。
- 栄養教諭による食に関する指導については、栄養に関する専門知識を生かすため、5・6年生の家庭科の時間での指導時間を増やし、参観日に学級活動でチームティーチングによる指導を実施したことで児童、教職員、保護者の意識が高まった。
- 給食試食会や親子料理教室、食育講演会などの取り組みをとおして参加した保護者や教職員から「食べることの大切さや食について考える機会になった、家庭でも親子で料理を作る機会が増え、留守の時には子どもが自分で料理を作っている。」などの感想を得ており、食育への関係者の関心が少しずつ高まってきた。

## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 全体の喫食率は良くなっているが、学年・学級によって多少の差が生じているので、毎日の各教室での給食時間における日常の指導を大切に取り組む必要がある。
- 食育(食)の大切さを保護者の方にどう知ってもらうか、啓発活動を大切にしていく必要がある。
- 食事のマナー(箸の持ち方、食器をもつ、姿勢など)の定着や意識の向上は家庭との連携と継続的な取り組みが重要である。
- 栄養教諭による学校での食に関する指導時間の確保と給食センターでの学校給食管理との調整が課題である。